

標準委員会 システム安全専門部会 シビアアクシデントマネジメント分科会  
第17回シビアアクシデントマネジメント分科会議事録

1. 日 時 2013年5月28日(火) 9:30~12:00

2. 場 所 原子力安全推進協会 13階 第1,2会議室

3. 出席者

(出席委員) 岡本主査(東大), 杉山副主査(JAEA), 鎌田幹事(原安進), 井田委員(JANUS),  
及川委員(東芝), 織田委員(日立 GE), 倉本委員(NEL), 黒岩委員(MHI),  
柴本委員(JAEA), 鈴木委員(原電), 竹越委員(関電), 出町委員(東大),  
西委員(電中研), 廣川委員(TEPSYS), 松本委員代理(中部電), 藤本委員候  
補(JNES), 中村委員候補(JNES)

(17名)

(欠席委員) 阿部委員(東北大), 守田委員(九大), 増田委員(東電), 湧永委員(中部電)

(3名)

(常時参加者) 藤原(TEPSYS), 片上(四電), 森本(NEL), 窪小谷(原安進), 松本(JANUS),  
清時(日立 GE), 黒田(東芝)

(4名)

(オブザーバー) 武部(原燃), 泉(電事連)

(2名)

(敬称略)

4. 配布資料

- S2SC17-1 第16回シビアアクシデントマネジメント分科会議事録(案)
- S2SC17-2 人事について
- S2SC17-3 第22回システム安全専門部会の議事録
- S2SC17-4-1 SAM実施基準(最終改訂案)
- S2SC17-4-2 システム安全専門部会コメント対応表
- S2SC17-4-3 リスク専門部会コメント対応表
- S2SC17-4-4 書面投票結果に対する岡本主査コメント対応表
- S2SC17-5 シビアアクシデントマネジメント分科会のスケジュール(案)
- S2SC17-6 2013年秋の大会(9/3-5)企画セッション提案書

参考1 第16回シビアアクシデントマネジメント分科会議事メモ(案)

参考2 シビアアクシデントマネジメント分科会 委員及び常時参加者

5. 議事内容

5.1 出席者/資料の確認

鎌田幹事より、委員の出席者が 17 名となり、定足数を満足していること及び配布資料の確認が行われた。

## 5.2 第 16 回分科会議事録の確認

岡本主査より、配布資料 S2SC17-1 に基づき、第 16 回分科会の議事録について確認が行われ、正式に承認された。

## 5.3 人事について

配布資料 S2SC17-2 に基づき、内田委員及び深沢委員の退任、藤本氏（JNES）及び中村氏（JENS）各委員候補の選任に関する採否が取られ、正式に承認された。

## 5.4 第 22 回システム安全専門部会における最終報告について

鎌田幹事より、配布資料 S2SC17-3 に基づき、上記部会における SAM 実施基準（案）の最終報告に対する審議結果についての報告があった。また、書面投票の結果については、意見付保留 2 名を除く委員全員が賛成し、可決した旨が報告された。

## 5.5 SAM 実施基準（改訂案）に対する部会コメント対応結果について

S2SC17-4-1, S2SC17-4-2, S2SC17-4-3 に基づき、作業会メンバーからシステム安全専門部会及びリスク専門部会の各コメント対応結果の報告がなされ、これらの妥当性について審議を実施した。更に、S2SC17-4-4（岡本主査のコメント）に基づき、本文、附属書の記載内容について修正要否を含めた最終確認を行った。

### (1) システム安全専門部会コメント対応結果に関する審議について

システム安全専門部会のコメント対応結果（63 件）の技術的な項目について、対応内容の妥当性について協議を実施した。主な議論は以下の通り。

- ・成宮委員コメント (No.10 追加) の「PRA の留意事項との相違点」に関しては、「アクシデントマネジメントの抽出に資するべく」以外に「燃料及び格納容器の健全性、放射性物質の放出に関する重要シーケンスの抽出とシビアアクデントの一連の事象進展を考慮する。」旨を記載しており、PRA の考慮事項とは異なることを示している。
- ・コメント対応表で「苛酷」と「過酷」が混在は「過酷」で統一、修正する。
- ・鈴木委員コメント (No.10) の溢水及び火災のハザード分類については、本文 5.2 節、表 5.1 で外的事象が内部ハザードと外部ハザードに分類される旨を記載済み。
- ・鈴木委員コメント (No.6) については、深層防護の考え方の一つとし、定義は解説 1, 2 を参照させる形式とする。
- ・鈴木委員コメント (No.1) については、冒頭に「本来、安全上重要な設備、機器の共用部は許容していないが・・・」と記載し、あえて可能性を想定した場合という記載にする。

- ・野中委員コメント (No.1) については、7.4 節の冒頭でマネジメントクラスの設定の目的 (4.2 実施方針) を繰り返し記載する。

## (2) リスク安全専門部会コメント対応結果に関する審議について

リスク安全専門部会のコメント対応結果 (43 件) の技術的な項目について、対応内容の妥当性について協議を実施した。主な議論は以下の通り。

- ・村田委員コメント (No.5) の注記「シビアアクシデントの発生は極めて稀であり・・・」の削除要請については、「・・・発生は極めて稀であり・・・」は削除し、「アクシデントマネジメントについては通常の運転、保守のように現場で経験を積めないため、教育・訓練が重要である。」と修文する。また、「シビアアクシデントの実績」ではなく、本文記載の「調査・監視」を用いて「調査、監視の結果を基にするだけでなく・・・」として整合させる。
- ・村田委員コメント (No.3) のテロの扱いは、低頻度・高影響事象に入れて考えればよいと考え、低頻度・高影響事象での対策がテロにも有効であるとの趣旨とする。
- ・村田委員コメント (No.7) の公平性の定義については、「事業者と同一の組織に属さないことが望ましい・・・」とし、続けて「技術士の資格を有しており、・・・、外部への説明性が担保できる場合には・・・公平性が確保されていると考えることができる。」という趣旨とする。外部への説明性が重要であることを強調する。
- ・山下委員コメント (No.2) であるが、ハード偏重は悪く、マネジメントが重要であり、これらをサポートするためにハード、ソフトを整備するという趣旨。「人員のマネジメント対応能力を十分にしておくことが極めて重要な視点となるため」と既に記載済みであり、マネジメント主体という考え方として、「ハードウェアの整備に加えて」の前に「必要に応じた」と追記する。
- ・成宮委員 (No.2) の定性評価時の不確実性担保の考え方については、「評価精度の落ちる定性評価等を用いる場合には、シーケンス摘出時に適切な保守性を考慮する必要がある。」旨を附属書 H の序文で記載する。
- ・藤井委員コメント (No.14) のフィルタベントの事例については、単に CV 雰囲気中の FP が FV で 1/1000 に低減されるという意味であり、W/W ベント効果に対する「さらに」は削除する。
- ・桐本委員コメント (No.6) は、マネジメントクラス設定の御利益が見えにくいということであり、本文の 7.4.2 b) で「クラスレベルに応じた。」という文言を追記する。

## (3) 部会書面投票結果に関する岡本主査コメントについて

両部会コメント対応結果に対するコメントについて、協議を実施した。主な議論は以下の通り。

- ・マネジメントクラスに関する定義については毎回出てくるコメントであり、附属書 P の

P3 の冒頭に「具体化の一例としてクラス分類の考え方を示す。」旨を追記する。

- ・鈴木委員コメント (No.1) に対する対応として, Q.2.5 で追記した部分で「発電所所長は一人であるべき・・・」部分は削除する。

#### 5.6 シビアアクシデントマネジメント分科会のスケジュールについて

鎌田幹事より, システム安全専門部会 (書面投票結果の報告), リスク専門部会 (コメント対応結果の報告), 標準委員会 (最終報告) が各々, 5/31 (金), 6/10(月), 6/14(金) に予定されているとの報告があった。次回分科会は標準委員会後になるが, 原則メール審議とすることで合意した (予備日は 6/17)。

#### 5.7 2013 年秋の大会企画セッションについて

鎌田幹事より, 次回大会での企画セッションの発表テーマ, 発表予定者の報告があった。SAM 実施基準の発表者については今後調整予定。

以 上